子どもに絶対言ってはいけない！　「人格・能力・存在」否定言葉

私は、小学生のときに先生に言われた言葉で、忘れられない一言があります。ある日の授業で、先生が出した問題に私が手を挙げて答えたときのことです。それは正解だったのですが、その直後、先生が「隣の〇〇の答を見ただろう。お前にそんなことがわかるはずがない。」と言ったのです。この言葉は、50 年近くたった今もはっきり覚えています。先生は、私のことを「隣の子の答を盗み見て発表するようなずるい子」だと思っているわけです。これは、私の人格を丸ごと否定する言葉であり、忘れようと思っても忘れられない言葉です。私が言われたような人格否定の言葉は、絶対に言ってはいけない言葉です。たとえ一回でも、言われた方は深く傷つきます。一生忘れられなくなる可能性もあります。そして、自分が傷つくだけでなく、言った相手に対する不信感も抑えがたいものになります。

人格否定‥ この人格否定の言葉には、「だらしがない」「情けない」「怠け者」「根性がない」「バカ」「のろま」「気持ち悪い」「弱虫」「泣き虫」「あなたは口ばっかり」「お前はいつもそうだ」「そんな子に育てた覚えはない」「どうしようもない奴だ」「お前には無理だ」「お前にできるわけがない」「見込みがない」「お前は信用できない」「お前はダメだな」などがあります。

能力否定‥ また、能力否定として次のようなものが挙げられます。「お前は頭が悪い」「お前には無理だ」「お前にできるはずがない」「運動神経ゼロだね」「算数が苦手だね」「字が下手」「音痴」「服のセンス悪いね」「足し算もできないの？」「お箸もまともに持てないの？」「こんな字も読めないの？」「片付けもできないの？」「妹にできて、なんであなたにできないの？」「弟を見習いなさい」「1 年生になって、そんなこともできないの？」「もう 1 度幼稚園に戻りなさい」などです。

存在否定‥ さらには存在否定としては、「お前なんか産まなきゃ良かった」「おろせば良かった」「本当は男の子が欲しかったのに…」「3 人目は女の子が良かったんだけど…」「お前は橋の下から拾ってきたんだ」などがあります。

親は、このような子どもの誕生にまつわる存在否定の言葉を、冗談半分で言ってしまうことがあります。でも、言われた方は冗談では済みません。子どもは笑いながら聞いているように見えても、本当は心の中で傷ついているかもしれません。今までこういった言葉を発していた人は、今日を限りにやめましょう。そして、これらとは正反対の言葉を子どもに贈ってあげてください。一番良いのは、子どもの存在を無条件で丸ごと肯定する言葉です。「あなたのことが大好き」「あなたがいてくれるだけで幸せ」「あなたは私たちの宝物」「大好きだよ」「ママとパパのところに生まれてくれてありがとう」「おかえり」「無事帰ってきてくれてよかった」などです。

こういった言葉を、日頃から繰り返し贈ってあげてください。そうすれば、子どもの自己肯定感が大いに高まりますし、親子関係も非常に良くなります。

＜ 教育評論家：親野 智可等 ＞

❤ Happy Birthday　２／５‥石原美衣紗さん